山岳レクリエーションでの雪崩死亡事故の特徴（1990/91-2012/13）

〇出川あずさ（日本雪崩ネットワーク）

1. はじめに

日本では1990/91から2012/13までの23年間で122件の雪崩死亡事故が発生し、197 人が亡くなっている。この内、山岳レクリエーションにおける 92 件の死亡事故の特徴を把握するため、新聞等で報道されたあるいは調査を行ったデータを整理した。

2. 方法

雪崩死亡事故を「レクリエーション」「仕事」「その他」に三区分した。レクリエーションは、登山や山スキーなど山岳での活動およびスキー場での事故である。仕事は、道路の除雪作業者、山小屋や温泉旅館の従業員等である。その他は、救助隊員や住民等である。また、レクリエーションにおける事故発生場所を「山岳」と「スキー場」に二区分した。スキー場は、一番外側のコースで囲まれた範囲である。

3. 特徴

3-1 年齢と性別

「山岳」の区分におけるレクリエーションでの雪崩死亡事故は 92 件発生しており、その死者は 148 人である。性別の割合は男性 87%、女性 13%である。また、年齢は平均 40 歳（median 39）であり、20 代前半に山があるのが特徴である（図 1）。これは大学生の死者の影響である。

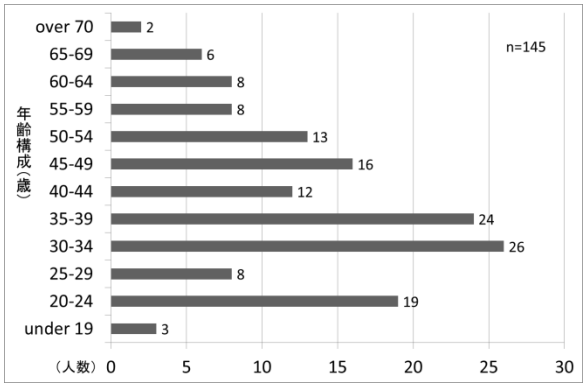

図 1：山岳レクリーションでの死者・年齢構成

3-2 活動の内訳

登山者が最も多く、76 人が亡くなっており、死者の 51%である。続いて、スキーヤーの 47 人であり、登山者と合わせ、死者総数の 83%を占める。また、スノーボーダーの死者は 12 人（8%）である。一方、北米で大きな問題となっているスノーモービラーの死者は 5 人（3%）と少ない。

3-3 プロガイドの有無

グループの 94%はプロの山岳ガイドを伴わない仲間あるいは単独での行動である。一方、プロによるガイドツアー中の事故は 5 件である。

3-4 複数死者の事故

死者 2 人以上の死亡事故は 32 件発生しており、最大は死者 6 人である。複数死者の事故件数は、山岳レクリエーションでの死亡事故の 35%にあたるが、その合計死者数は 59%（88 人）を占める。

3-5 複数死者の事故における活動別所属

複数死者の事故において、死亡した登山者の 86%、スキーヤーの 44%が、山岳会や大学山岳部等に所属あるいはその OB である。また、スキーヤーは、個人としての活動が 37%あり、山岳会等に所属する人と同程度の割合である。所属の「その他」はガイドツアーのクライアントや不明等である。（図 2）。

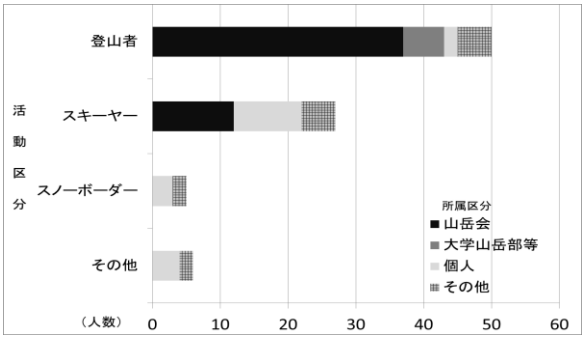

図 2：複数死者の事故における活動別所属

4. まとめ

データの整理により、複数の死者がでる重大性の高い事故において、活動では登山者やスキーヤーが多く、また山岳会などに所属する人の割合が高いことがわかった。山岳レクリエーションにおける雪崩安全対策において、事故を小さくすることは極めて重要であるため、今回判明した事実を元に雪崩教育等を検討することが必要であると考える。